

令和7年度 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要

はじめに

平素は本校教育活動にご理解、ご協力を賜り有り難うございます。

さて、本年度4月18日に3年生を対象とした「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、7月18日に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、数学・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図って参ります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にして頂きますようお願い致します。

令和7年11月
(2025年)

I 教科に関する調査結果の分析

国語

(1) 調査の概要

本校正答率は全国値をやや下回りました。

(2) 学習指導要領の各領域等における成果と課題

【話すこと・聞くこと】

「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」、「発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く」といった問題で全国値を下回りました。

【書くこと】

「ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する」、「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する」という問題で全国値を上回りましたが、「ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く」、「手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く」という問題で全国値を下回り、無解答率も高かったです。

【読むこと】

「物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する」、「「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く」という問題で全国値を上回りました。「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く」という問題では全国値を下回りました。

(3) 今後の改善点について

無回答率が全国値を上回る問題が多かったことから、選択肢や決まった答えがない問いに対して、自分の考えをわかりやすくまとめることに苦手意識を感じている生徒が多いと考えられます。どの学年の授業でも、教科書の作品を解説するだけでなく、生徒が作品を通して考えたことを文章にしたり、話し合ったりする活動を取り入れています。またまとめた文章を作ることが難しい場合は、考えを一度絵にすることや、ほかの人に言葉で説明をした後で文章にするなど、書くことへの抵抗が少なくなるよう工夫しています。また、プレゼンやスピーチのために PC を使用して調べ学習

をする機会も多いため、自分の考えをわかりやすく伝えるための情報を収集・選択する力は身につけていると考えられます。漢字や語句など基礎的な知識については定期テスト以外で小テストを行うなどして、定着を図っていきます。

数学

(1) 調査の概要

本校の正答率は全国値をやや上回りました。

(2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

【数と式】

「素数の意味を理解しているかどうかをみる問題」・「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題」については、全国値を上回りました。一方、「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる問題」については、全国値をやや下回りました。

【図形】

「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題」については、全国値を上回りました。一方、「証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる問題」・「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題」については、全国値をやや下回りました。

【関数】

「一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる問題」については、全国値を上回りました。一方、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題」・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題」については、全国値を下回りました。

【データの活用】

「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題」・「不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題」について全国値を下回りました。

(3) 今後の改善点について

「知識・技能」に関する問題については、【数と式】【図形】【関数】の領域において正答率が全国値を上回るものが多くなっており、これまでの頑張りの成果がよく見られました。

しかし、「思考・判断・表現」に関する問題においては、【図形】【関数】【データの活用】の領域において、正答率が全国値を下回るものがありました。こういった問いを解決していく力をつけるために、授業のなかで与えられた式や図形の性質からどういったことがわかるのかを考えたり、式・図・グラフの特徴を関連付けて理解したりするような活動を取り入れていきます。また、【データの活用】の領域においては、語句の意味や確率の求め方などが定着していないところもみられるため、普段用いるデータや確率などと関連付けながら興味をもって取り組むことができる活動を取り入れて理解の定着を図ります。

理科

(1) 調査の概要

本校の正答数は全国平均をやや下回りましたが大阪府平均と同程度でした。

(2) 学習指導要領の各領域における結果と課題

【「エネルギー」を柱とする領域】

「ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題」については、全国値をやや上回りました。一方、「身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題」については、全国値を下回りました。

【「粒子」を柱とする領域】

「身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題」・「科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題」については、全国値を下回りました。

【「生命」を柱とする領域】

「水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題」については、全国値を下回りました。

【「地球」を柱とする領域】

「露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる問題」については、全国値を上回りました。一方、「地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる問題」・「気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題」については、全国値をやや下回りました。

(3) 今後の改善点について

上記のように、全国値を上回る問題もありましたが、全体としては多くの問題で全国値を下回る結果となりました。改善を図るためには科学的な事物・現象について理解すること、理解したことを活用すること、その両方を高める必要があります。知識の獲得だけでなく、実験方法を自分たちで考えたり、実験結果の考察を班単位で話し合いながら行っていきます。また、教科書で学んだ内容と日常生活とのつながりを実感するよう、授業で取り扱う課題や教材については各学年で工夫するようにしています。

2 生活習慣や学習環境などに関する調査の傾向

～生徒質問紙からの分析～

【生活習慣】

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問について肯定的な回答が全国値を上回りました。一方で、「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、「あまり食べていない」、「全く食べていない」の回答が全国値を上回りました。

【自己肯定感・自尊感情】

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の回答は全国値をやや上回りました。いじめをなくしていく高い意識には吹田市全体で実施している「いじめ防止授業」を生徒の実態に合わせて実施していることの成果が見えています。また、「自分には、よいところがあると思いますか」という問いは、肯定的な回答が全国値を上回りました。「人が困っているときは進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いも肯定的な回答が全国値を上回り、生徒自身の「もちあじ」を認め合う集団作りや、3年間系統立てて取り組んできた総合人権学習の成果が表れているといえます。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という問いも肯定的な回答が全国値を上回りました。

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の回答も全国値を上回ったことから、今後も学校生活を通して生徒の自己肯定感を伸ばす取り組みを大切にしていきます。

【家庭学習】

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の回答において「30分より少ない」、「全くしない」と答えた割合は全国値を下回りました。これは本校の大きな課題であると捉えています。学校内での学習活動を大切にするだけでなく、教科の宿題や自主学習課題などを通して、家庭学習の大切さを伝えていくことで今後も引き続き、粘り強く指導をしていこうと考えています。

【家庭・地域社会】

「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）」という問いの肯定的な回答が全国値を上回りました。地域とのつながりは地域への愛着を感じる結果となりました。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という問いの肯定的な回答が全国値を上回りました。また、「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」という問いの肯定的な回答も全国値を上回りました。これも3年間系統立てて取り組んできた総合人権学習の成果として、今の社会の課題に気がつき、それを解決していくために社会に対して主体的に関わっていくことができているといえます。

【ICT 機器の活用】

「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という問いの回答は全国値を下回りました。「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。」という問いの肯定的な回答が全国値を上回る一方で、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」の問いは全国値を下回り、ICTを使用するスキルを幅広く向上させることとともに、機器を使うことが目的ではなく、ICT機器を活用することでよりよく学べるという実感を明示的に指導する必要があると考えています。

3 おわりに

本調査結果の分析より、学習における基礎・基本的事項の定着が全体的な課題としてとらえることができます。一方で、大半の生徒は実施された教科の学習は将来大切だと回答し、学習の意義は理解しています。さらに、「授業の内容はよくわかりますか」という質問にも大半の生徒が肯定的な回答をしています。これらのことを踏まえると、学習への意欲はあり、日々の授業にも前向きだが、基礎・基本を自分のものとするための時間を確保できていない傾向がうかがえます。学校全体としては今後、より分かりやすい授業の工夫を全体で協議していくとともに、適切な課題、宿題等を各教科で吟味し、継続的に学習の支援を行っていくことを検討しています。

また、生徒の自己肯定感が高い数値となった要因として、3年間系統立てて取り組んできた総合人権学習の成果が表れているということが挙げられます。今後も学校全体で取り組みを続け、生徒たちが自らや周りに目を向け、社会課題の解決に向けた主体的な取り組みを系統立って行っていこうと思います。

これからも引き続き、ご家庭と連携をしながら生徒の生きる力を育てていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。